

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 9 月 20 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870200593
法人名	(株)シルバーケアサービス
事業所名	グループホーム ひまわり
所在地	今治市八町西4-1-14 (電話) 0898-22-8115
管理者	富田 陽子
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15
訪問調査日	平成 19 年 9 月 11 日
評価確定日	平成 19 年 11 月 19 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 8 月 20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 9 日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	17 人
常勤	14 人
非常勤	3 人
常勤換算	16 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	30,000 円		その他の経費（月額）	13,000 円	
敷 金	有（ ）円		○ 無		
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ ）円 ○ 無		有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり		1,000 円		

(3) 利用者の概要 (平成 19 年 9 月 11 日事業所記入)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	2 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83.5 歳	最低 71 歳	最高 92 歳		

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田畑が多く残る静かな環境の中に建てられた2階建てのホームである。居室、共用部分共にゆったりとした広さがあり、木材を多く使用し、床暖房を設置している。なによりもうれしいのは、家族介護、最愛の母への思いを胸に親孝行の続きができればという運営者の開設当初からの思いを、職員が共有していることである。利用者の、誇りを持って自分らしく過ごしている様子が、優しく迎えてくれる笑顔からうかがい知ることができる。家族とのふれあいを大切に、泊りがけの旅行を恒例行事としている。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4)

改善課題について職員全員で話し合い、具体的な改善シートを作成して取り組んでいる。①食事のカロリーや栄養バランスの管理は、職員に栄養士を雇用して対応している。②健康診断を実施している。③緊急時の対応マニュアルを消防署の協力を得て作成している。④成年後見制度等に関する学習を重ねている。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)

職員全員で自己評価に取り組むなかで、ホームとして地域に密着することの大切さをあらためて確認し、日常生活を見直している。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6)

ホームの行事予定や報告が主な内容となっている。今後、地域包括支援センターに加え、自治会、民生委員、地区社協、自主防災組織、地域団体等、地域のキーパーソンに働きかけてメンバーに入ってもらい、評価結果などを公開し、活発な意見交換ができる会にしていくことを望む。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8)

家族が付き添ってかかりつけ医を受診する際に、利用者の健康状態を細部にわたり報告している。生活ぶりは定期発行のホーム便りで報告し、一人ひとり個別に手紙と写真を添えて知らせている。運営推進会議、家族会で自由に意見を出してもらい、意見をミーティングで検討し、できることから改善につなげている。また、改善できないことについてはその理由を明確に説明し、理解してもらうよう努めている。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)

地域の行事には参加しているが、農村地帯としての歴史的地域特性等から、日常生活の中で地元で溶け込んでいくことの難しさを抱えている。ホームとして町内会(自治会)に加入し、広報や回覧板を回してもらうことで行事など地域の情報を集め、地域の一員としてできることから積極的に参加していき、交流を深めることが望ましい。また、運営推進会議を通して地域と連携していくことが求められる。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホームひまわり

(ユニット名)

ほほえみ

記入者(管理者)

氏 名

富田 陽子

評価完了日

平成 19 年 8 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 運営推進会議を活用して地域に開かれたホームづくりに取り組んでいる。日常生活の中でホーム周辺を散歩したり、地域行事に参加する機会や地域との交流の機会(見学、慰問、ボランティア受入など)を確保している。 全員で話し合い理念をあげ、実践している。 (外部評価) ホームで利用者一人ひとりが自分自身の生き方を大切に、自分らしく安らぎのある生活を送れるよう支援していくという理念を軸にしている。	※	事業所独自の理念を職員の意見を踏まえ検討し、文章化したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 職員間で話し合っ決めた理念の実戦に向けて日々努力している。定期的にミーティングを行い、理念について振り返る時間を確保している。 (外部評価) 理念を実践するにはどういうケアが大切か、常に利用者の立場になって考え、定期的に話し合いを重ねている。	※	適宜、理念の見直しを行いたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議を活用して、ホームの活動内容や利用者の生活状況などを報告し、地域の方々の理解が得られるよう努めている。また、毎月の新聞による連絡や定期的な家族会などにより、家族の声が聞ける機会を確保している。	※	運営推進会議にもっと多くの方々が出席していただけるよう働きかけたい。会議進行方法を工夫していく。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩の時に会った隣近所の方々と日常会話ができている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の行事（納涼祭や運動会など）に参加している。ボランティアや職場体験実習を受け入れ、交流ができている。 (外部評価) 地域の行事には参加しているが、農村地帯としての歴史的・地域性等もあり、日常生活の中で地元になじむ難しさを抱えている。	※ ※	自治会や老人会への参加について検討する。 ホームとして町内会（自治会）に加入し、広報や回覧板を回してもらうことで行事等地域の情報を集め、地域の一員としてできることから積極的に参加し、交流を深めることを望む。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) ホームでの利用者支援に手一杯であるのが現状。地域の高齢者等が困っている状況を知れば、相談等必要な支援を実施したいと考えている。	※	民生委員の方などと協力して、地域の高齢者等の状況を把握して、できることがあれば取り組みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 取り組んでいる。具体的に改善を明記し、その改善点や方向性を運営推進会議で報告、職員のミーティングで確認している。 (外部評価) 職員全員で外部評価を活かして具体的に改善に取り組んでいる。また、自己評価に取り組むなかで、ホームとして地域に密着することの大切さをあらためて確認し、日々の取り組みを見直している。		マナー化しないように意識する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 実施している。 家族の運営推進会議への参加率が低いため、十分な意見が得られていない。	※	家族の積極的な意見が得られるよう工夫したい。
			(外部評価) 契約書の中に運営推進会議の項目を設け、利用者、家族の方全員をメンバーとしているが、参加できる方は少ない。ホームの行事予定や報告が主な内容となっている。	※	地域包括支援センターに加え、自治会、民生委員、地区社協、自主防災組織、地域女性組織など、地域のキーパーソンに働きかけてメンバーに入ってもらい、評価結果などを公開し、活発な意見交換ができる会にしていくことを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 包括支援センターの保健師さんなどにフロアの生活状況や介護を見ていただいたり、相談にのってもらったりしている。	※	今後は保健師、主任介護支援専門員や社会福祉士の方からも助言をいただける機会を設けたい。
			(外部評価) 様々な申請手続きや書類提出の機会をとらえて窓口を頻繁に訪れ、相談や情報交換を積極的に行っており、顔見知りの関係をつくっている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 実施している。入居者の方で該当する方には推進し相談支援を行った。 職員は外部研修に参加し勉強してきた。また、その報告会をミーティングで行っている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 外部研修会に参加し、後日ミーティングで報告、説明を行い勉強会を実施している。高齢者虐待防止関連法について理解し、防止に向けて取り組みをしている。		向精神薬等の薬が処方されている場合においても、できる限りコミュニケーションや余暇活動を通して状況が改善されるよう工夫する。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が契約前、契約後も随時不安や疑問に丁寧に対応するよう心がけている。職員も本人や家族の不安や相談に応じる努力をしている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日々、利用者の気持ちの把握に努め、職員間で対応法を検討している。 また、外部相談窓口も重要事項説明書に記載している。ホーム内にも掲示している。ご意見箱も玄関に設置している。	※	家族の意見を聞き出せる機会を増やしたい。(アンケートなど)
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 毎月の新聞でホームの動向を知らせるとともに、個人の写真と生活状況のメッセージを書き報告している。また、必要時は随時電話等で連絡を行っている。金銭に関する報告は、管理者が行っている。 (外部評価) 家族が付き添ってかかりつけ医を受診する際に、利用者の健康状態を細部にわたり報告している。生活ぶりは定期発行のホーム便りで知らせ、個別に手紙と写真を添えて送っている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を玄関に設置し気軽な利用を求めている。また、相談窓口(事業所内担当及び外部)も重要事項説明書に記載している。ホーム内にも掲示している。 家族会やお便りなどで話しやすい雰囲気を作るよう心がけている。 (外部評価) 運営推進会議、家族会で自由に意見を出してもらい、意見はミーティングで検討しできるだけ改善につなげている。また、改善できないことについてはその理由を明確に説明し、理解してもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に2回ミーティングを行い、現状確認、情報交換、意見交換を実施している。運営者や管理者もミーティングに参加している。職員全員から率直な意見を聞けるよう、ミーティングがあるが、発言者に偏りがあるため、全員の意向を把握し切れていない。	※	日々のコミュニケーションを大切にする。意見調査アンケートなどで工夫する。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 柔軟な対応ができるよう、職員の勤務体制の調整に努め、職員間で協力して実施している。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員異動も必要最小限にとどめ、より良いチームケアの実践ができ、利用者の生活環境の安定を損なわないよう配慮している。 (外部評価) 運営法人として託老所や別のホームを開設した時に異動や増員をしたが、利用者にとってより信頼感を持つことのできる職員を配置する良い機会となっている。	※	職員教育を行う。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修を受ける機会を確保し、職員教育・育成に努めている。 (外部評価) 様々な研修会の情報を公開し、必要なものに参加できるよう勤務のローテーションを調整している。経費はホームが負担し、内容について職員間で共有できるよう報告書を作成し、内部研修を実施している。	※	外部講師を招き社内研修を行う。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域の同業者との交流する機会は確保できていない。ホームで行う納涼祭等へは案内をしている。グループホーム連絡協議会に入っている。研修会等で意見交換や助言をいただく機会がある。	※	地域の同業者と交流する機会を確保する。
			(外部評価) 利用者と行事に参加することはあったが、現在は交流はほとんどない。	※	身近な地域でネットワークをつくり、交換研修や学習会、交流会等の機会を持つことで互いにサービスの質の向上をめざす取り組みが求められる。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 食事会、旅行、親睦会などを計画し、職員のストレス軽減にを図っている。	※	職員と日常よりコミュニケーションをしっかりと実施していく。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は、職員の個々の努力や実績、勤務状況を把握しているが、各自が向上心を持ち続けて働けるよう十分なサポートはできていない。	※	職員と日常よりコミュニケーションをしっかりと実施していく。褒めること、アドバイスすることなど、意図的な工夫をしていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 丁寧な対応に心がけ、利用者の気持ちを把握し、受け止める努力をしている。アセスメントに記録している。よく相手の話を聞くことができる。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 丁寧な対応に心がけ、家族等の気持ちを把握し、受け止める努力をしている。アセスメントに記録している。	※	こまめに連絡を取り必要な支援を行う。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 必要な情報収集を行い、アセスメントによる必要な支援の見極めに努めている。介護職員の視点や他の関係者の視点を貴重な意見として支援に努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 必要に応じてお試し利用や日中体験利用などで対応している。本人、家族が納得・安心していただけるよう、随時相談に応じている。 (外部評価) ケアマネジャーや病院からそれまでの情報を得たり、利用者・家族に来院してもらい、見学や宿泊を繰り返し、ホームの雰囲気や他の利用者・職員と顔を合わせて馴染んでもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 支え合う関係を築く努力をしている。できることができるよう支援しながら感謝の気持ちを伝え、支え合って生活しているという雰囲気づくりに努めている。 (外部評価) 利用者は人生の先輩として、職員は考え方や言葉使い、洗濯物の干し方、料理の知恵、食材の扱い方、掃除の仕方など教わるが多々ある。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 常に、色々な連絡をしたり、本人を交えて一緒にお茶をしながらお話ししたり、家族の悩みや気持ちを理解する努力を行っている。家族会などで一緒に過ごす時間を確保し、自然なかたちで介護にも関わっていただけている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 日頃から会話の中でこれまでの暮らしの情報を教えていただき、より良い関係が築かれるよう支援に努めている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) アセスメントにより馴染みの人の存在の把握に努め、本人や家族の意向を踏まえながら支援している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 席の配置や声かけにより関わり合い、良好な関係が気づけるよう配慮している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、随時相談に応じる等の対応をしている。ケアマネージャーや関係者との連絡も必要に応じて実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 思いや意向を一人ひとり把握して本人本位な暮らしの実現を支援しているが、暮らしの中で寝たりじっとして過ごされることの多い方には声かけをして余暇活動の誘導をしている。 (外部評価) ホームでの暮らし方とそれまでの暮らし方に相違が大きく混乱することがないよう、十分な情報を得るよう家族の話をよく聞き、希望や意向を把握している。日々の暮らしの中で把握する努力を継続している。	※	利用者が元気に楽しく生き甲斐を持って過ごしていただけるよう思いや意向を継続して把握し、実現に向けて取り組んでいく。家族にも相談する。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に暮らしの情報を家族や関係者から収集している。また、日常会話の中で追加情報の把握に努めている。追加情報を個人ファイルに記入している。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 入居時に面談や家族、関係者から状況をよく聞き、現状把握に努めている。継続的に、できること、支援が必要なことの見極めを実施している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 日頃から本人や家族の意向を把握できるよう努めている。計画作成には、本人、家族、職員等の関係者の意見を反映させながら作成している。 (外部評価) 月2回のミーティングを行って職員全員で気づきを出し合い、日頃家族から聞き取っている要望を組み入れ、個別具体的な介護計画を立てている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 介護計画の期間に応じた見直しを実施している。また、定期的なミーティングにて状況の変化がある場合にも見直しを実施している。 (外部評価) 長期見直しの期間は6か月ごととしているが、月2回のミーティングで見直しを行い、必要に応じて随時見直ししている。	※	日常生活の記録（介護日誌）が、介護計画の具体的な評価につながった記載となる工夫が望まれる。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人記録に、介護計画書を、ケア内容、気づきなどを記入する記録用紙とともにファイリングしており、職員間で情報を共有しながらケアの実践と見直しができるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 状況に応じた対応を心がけている。併設のデイサービスや居宅事業所、訪問介護のスタッフも協力的である。家政婦派遣、介護タクシー、その他の社会資源の利用も考慮している。 (外部評価) 家族によるかかりつけ医の受診が困難な場合には家政婦による付き添い受診をサポートしている。美容院などへの付き添い、外泊の支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 本人、家族の意向や必要性により、地域資源を活用した支援ができる体制である。	※	地域資源との協働を、様々な形で実施していく。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人、家族の意向や必要性により、適当な支援ができるよう、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合って検討している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 本人、家族の意向や必要性により、適当な支援ができるよう、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合って検討している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 原則これまでのかかりつけ医に継続して適切な医療が受けられるよう支援している。 (外部評価) かかりつけ医の受診は原則として家族に任せており、受診の際には健康状態や日常の生活状況を詳しく伝えている。また受診内容と医師の指示を受診報告用紙に記入してもらい確認している。	※	家族が納得が得られる、適切な医療を受けられるよう、家族と相談して決める。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) かかりつけ医及び主治医を中心に支援している。必要に応じ、他の専門医を紹介している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 併設するデイサービスの看護職員から、日々相談や助言が得られる体制である。健康状態の変化に応じた支援を受けている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 職員ができる限り面会、お見舞いをすることで、医師や家族との情報交換をしながら、対応可能な段階での早期退院支援ができるよう話し合いを実施している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) ホームで通常の介護方法で生活が可能かどうか、また、どのくらいの医療的看護が必要か、本人、家族が安心して過ごすことができる方法を家族やかかりつけ医と話し合っている。 (外部評価) ホームの運営方針として、重度者や終末期の方は対象とできないことを入居時から説明している。日常の健康管理や急変時の対応については常に話し合い確認している。	※	重度化や終末期に対するホームとしての指針を文書化し、具体的な対応を常に家族や職員間で共有し合意しておくことを望む。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人、家族が安心してより良く暮らせるために、話し合いを実施している。 かかりつけ医とともにチームとしての支援は課題がある。	※	経過支援を記録する。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 環境の変化の負担について十分理解している。必要な情報交換と継続支援に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	(自己評価) 秘密保持、プライバシー保護には十分注意して対応している。 トイレ誘導等の介護の方法、声かけにも配慮して、さりげないサポートができるよう努めている。 (外部評価) その人の範疇を侵さないよう気をつけている。名前の呼び方や声かけには十分な配慮を忘れないよう注意している。またプライバシーに関する記録や書類は慎重に取り扱っている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 自己選択、自己決定の場面を大切にして、能力に応じた対応をするように努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの体調や気持ちを尊重したケアに努めている。昼寝をとられたり、起床・就寝時間も個々のペースを尊重している。余暇活動は強制でなく自由参加が原則。参加されない方に対しては、本人がやりたいことが何か検討して対応している。 (外部評価) ホームの生活の流れに、一人ひとりその方のペースで関わり、自分らしく過ごされている。訪問時の昼食でも利用者がホームのペースを作っている様子がうかがえた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 日常の服やおしゃれなど自己選択、自己決定ができるよう支援している。理美容については、家族が付き添って行かれる。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下ごしらえ、食事、片付けなど一緒に行いながらコミュニケーションができています。好みや食べたいモノなどの希望を聞いて、可能な範囲で調整に努めている。 (外部評価) 食事の準備は利用者が職員とおしゃべりしながら行い、食事中も会話がはずみ楽しいひと時となっている。片付けは、順番に焦ることなく、思い思いに自分のものは自分で洗っている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 利用者の希望に添った飲み物、おやつを準備可能な範囲で提供したり一緒に作ったりしている。喫煙については、望み、健康面、安全面に留意しながら、見守りにより対応する。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) おむつの使用をできる限り減らすよう、排泄リズムの把握、誘導等の必要な介助を実施している。羞恥心に配慮しながら排泄がスムーズにできるよう支援している。尿パットの使用などの対策にも本人、家族の意向を聞き検討している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 原則毎日入浴を実施している。時間帯は利用者の体調や希望により柔軟な対応に努めている。温泉の素やショウブ、ゆずなど季節に応じた楽しみも実施している。 (外部評価) ひとりでのんびり入る、友だちと一緒にワイワイ入るなど、利用者にまかせて好きなように入ってもらっており、職員は必ず見守りをしている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 体調や希望に応じて休息をとっている。眠れないときは飲み物を飲みながらお話しなどして安心して入眠ができるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 食事作り、おやつ作り、野菜選別、掃除など、利用者の能力と意欲、楽しみに配慮しておこなえるよう支援している。やりがいを感じてもらえるよう、感謝の気持ちを伝えている。 (外部評価) 皆にエプロンを配る、掃除機をかける、トレーを拭くなど、それぞれ自分の持ち前を発揮している。家族も一緒に、年に1回から2回泊りがけの旅行も楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の能力、希望に応じ、見守りをしながら買い物や外出の支援を行っている。本人、家族とよく話し合ったうえで事務所で預かるか、本人が管理するかを決めている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 散歩、ドライブ、お花見、山や海へキャンプに出かけたり、喫茶店、外食へ出かけている。また、家族も自由に面会に来られ、一緒に出かけたり、外泊されたりしている。 (外部評価) 四季折々の表情がある田んぼ道を日々楽しんで散歩をしている。利用者が歩いていける範囲に商店がないので、車で買い物やドライブに出かけている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 普段行けない場所への外出は、職員の勤務調整をして実施している。季節のお祭りや果樹園ほか、利用者の希望が実現できるよう調整している。家族へもその都度連絡し、同行希望を聞いたり依頼したりして、協力を得ている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでも電話ができる体制である。絵手紙や年賀状も出せるよう支援している。電話は家族の都合も確認して配慮することもある。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気軽に訪問していただけるよう、雰囲気づくりに努めている。オープンなホームであることを目指している。訪問時はお茶やお菓子を出して和みやすいようにしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束に関する外部研修に参加し、ミーティングで報告、勉強会をもち、正しい理解とケアを実施している。身体拘束は一切行っていない。	※	家族とも身体拘束について話し合い勉強会を持ちたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 鍵をかけないケアを実施している。利用者が外に出て行く場合は、職員がさりげなく一緒に付き添っている。 (外部評価) 出ようと思えばどこからでも自由に外へでられる。敷地内は広く、出入口は見通すことができる。利用者の思いをつかんでおり、必ず見守りながら付き添っている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は、職員間でコミュニケーションを図り、プライバシーに配慮しながらさりげなく誰がどこで何をしているか、把握できるよう努めている。夜間は1時間おきに巡回し、安全確認を実施している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 本人の能力、気持ちに配慮して、状況に応じ危険のないよう対応している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ミーティングで勉強会を実施している。必要な知識の習得に努め、事故を未然に防ぐ取り組みを行っている。	※	定期的に勉強会を実施する。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 毎年職員全員、消防署に依頼して応急手当の講習を受けている。緊急連絡簿やマニュアルを作成し、緊急時の対応に備えている。	※	AED設置を検討する。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 避難訓練、消火訓練を定期的に実施している。フロアーが2階なので、日頃からエレベーターを使わずに、階段を使って足腰の強化を図っている。運営推進会議で緊急時の協力依頼の話をしている。	※	具体的な連絡方法、協力体制を確立したい。
			(外部評価) 年2回避難訓練を実施している。2階からの避難に備えて、日頃からエレベーターを使用しないで階段を使うようにして機能維持に取り組んでいる。地域の協力については、今後の課題となっている。	※	運営推進会議のメンバーを介して、隣近所を巻き込みながら、災害時のマニュアルを作成し、具体的な連絡網や支援の依頼をしていくことが求められる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 起こりえるリスクについて家族に説明をしている。職員は対応策を検討し、圧迫感のない暮らしの支援に努めている。	※	リスクの要因を少しでも少なくするよう検討する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝のバイタルチェック、食事摂取量、水分摂取量、排泄などチェックし記録している。変化に気づいたときは速やかに情報を共有し対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋を整理し、内容を把握したうえで支援するようにしている。必要な服薬支援を確実に実行できるよう注意している。	※	処方されたものの効果を日々意識し、職員は変化に早く気づけるようにする。必要な知識を学ぶ。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 繊維質の多い食材や乳製品、水分をしっかりと、散歩や体操等日課としている。下剤を使用する場合は状態に応じて量や服薬の頻度を医師に相談している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の歯磨きを支援している。就寝前は、義歯をはずし毎週1回はポリドント洗浄している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) バランスの良い献立に配慮し、栄養、水分ともに摂取量を確認記録している。摂取量に変化がある場合は、原因を話し合い医師に相談する等の対応を実施している。水分はゼリーや寒天などでも工夫している。	※	公的機関の専門職にバランスチェックを依頼したが、受入困難という回答であった。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルを作成し、予防対策を実施している。ペーパータオルや個人のタオルを使用。タオルもこまめに交換している。手指消毒液を設置している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 殺菌処理を毎日実施している。台所の機具、水回りもこまめに掃除し、衛生を保つよう心がけている。食材についても新鮮なうちに丁寧に洗い使うことを徹底している。夏場は特に熱の徹った調理法で提供している。	※	衛生管理について、担当者を作り、随時管理がいきとどいているか確認ができるようにする。計画・実施表を整理する。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関や庭には季節の花が咲き金魚やツバメが巣を作る等、明るい雰囲気になった。道路に看板を設置している。玄関にもホーム名を掲示している。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 庭に面する窓が大きく、自然の光が気持ちいい。光が強すぎる場合は薄いカーテンで調整している。テーブルやフローにはお花や観葉植物をおいて生活感や季節感を感じれる工夫をしている。 (外部評価) 庭に面した場所にはピアノとソファが置かれ、ゆったりとくつろぐことができる。足をのばせる畳コーナーもある。仲良しの二人で入れる浴室、自分の食器をおしゃべりしながら洗うことのできる家庭的な台所など、毎日をゆったりと過ごせる工夫と配慮があちこちに見受けられる。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ベランダにテーブルと椅子を設置している。畳の部屋も自由に利用されている。フローにはソファがある場所と食卓テーブルの場所がある。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に、自宅にある使い慣れた家具を持ってきていただくよう説明している。鏡台や、使い慣れた家具を持ってこられている。 (外部評価) 収納が広く十分確保されているため部屋は広く使用できる。利用者の好みの物やカーテンを持ち込み、自分らしい居室となっている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 冷暖房に頼らず温度調節を意識し、換気にも注意している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 段差のないフロアーである。手すりも適当な場所に設置している。室内でも必要な方はシルバーカーが利用できるようにしている。		利用者の身体機能の低下に対応していく。特に浴室は階段式なので、対策を考えておくべき。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 利用者の状況に応じた環境作りに努めている。トイレは分かりやすく表示している。利用者によってはタンスにも用途を表示している。部屋入口には、木製の標札に名前を書いている。		
87		○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ベランダや庭にはテーブルと椅子を設置しており、自由に利用している。散歩の帰りに庭でお茶を飲んだり、お花を植えたり水撒きをしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	アセスメントを共有している。また、日常のコミュニケーションを重視している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	午前・午後のお茶の時間、食事の時間、食後の時間などゆったり過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	起床、就寝、食事など、ホームの生活リズムはあるが、個々のペースを尊重してケアにあたっている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	余暇活動や職員との会話に笑顔が見られる。得意なことをしているときや役割を果たしているときの表情は特別よい。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員と計画して出かけたり、家族と一緒に出かけたりしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	朝のバイタルチェックや職員の声かけで安心されている様子。定期的に病院受診もされている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	喜怒哀楽な日々を過ごせている。利用者の中には、怒りっぽい方もおいでるが、それも共同生活。時間が経てば仲良く笑顔で交流されている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (自己評価) ① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	来所の頻度の多い家族とは色々な話ができています。また、不安や悩みがないか、困っていることがないかも意識して尋ねるようにしている。来所の少ない家族へは、毎月の新聞報告と必要時連絡を行うが、十分な思いの把握にまではなっていない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	地域の人々の訪問はほとんどない。ボランティアの方や、ケアマネージャー、他のフロアー職員は気軽に訪問し交流している。たまに近所の子供が遊びに来る。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	回を重ねるたびに理解は深まっているように思う。現在のメンバーに加え広がっていくよう働きかけたい。
98	職員は、生き活きと働けている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	コミュニケーションを密にして、お互いに助けあう姿勢をもっている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居間もない方は、少しずつ慣れてきている様子。日中夜間とも穏やかに過ごせている。健康状態も安定している。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての家族等が 評価) ② 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族が遠方の方や来所の少ない方は、生活の様子を直接見ていただく機会が少ないので、意思が十分伝わりにくいように思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

平成14年9月の開設当初から、ホームの方針「柱」は変わっていない。家族介護を拠点に、家庭の温かさを大切に取り組んでいる。入居される方が、少しでも元気に、楽しく笑顔で過ごしていただけることがまず第一。その中で、自立支援、家族支援を並行して行っている。

「食事」「運動」「水分」「排泄」のテーマを重要視して日々の生活ケアに取り入れている。

「食事」…自家栽培の野菜や地元の新鮮な食材を使用して、毎日毎食手作りの食事を提供している。その過程は、利用者とともに作業している。

「運動」…体操、散歩、余暇活動など

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

Ⅴ.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームひまわり

(ユニット名) ゆめ

記入者(管理者)

氏 名 富田 陽子

評価完了日 平成 19 年 8 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 運営推進会議を活用して地域に開かれたホームづくりに取り組んでいる。日常生活の中でホーム周辺を散歩したり、地域行事に参加する機会や地域との交流の機会(見学、慰問、ボランティア受入など)を確保している。 (外部評価) ホームで利用者一人ひとりが自分自身の生き方を大切に、自分らしく安らぎのある生活を送れるよう支援していくという理念を軸にしている。	※	事業所独自の理念を職員の意見を踏まえ検討し、文章化したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 職員間で話し合って決めた理念の実戦に向けて日々努力している。定期的にミーティングを行い、理念について振り返る時間を確保している。 (外部評価) 理念を実践するにはどういったケアが大切か、常に利用者の立場になって考え、定期的に話し合いを重ねている。	※	適宜、理念の見直しを行いたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議を活用して、ホームの活動内容や利用者の生活状況などを報告し、地域の方々の理解が得られるよう努めている。また、毎月の新聞による連絡や定期的な家族会などにより、家族の声が聞ける機会を確保している。	※	運営推進会議にもっと多くの方々が出席していただけるよう働きかけたい。会議進行方法を工夫していく。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 管理者は、ホームなある地域で生まれ育っているため、地域とのつながりは深い。職員は、日常的に散歩や外出時に挨拶をするなど、関わりがもてるよう努めている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 自治会、老人会には参加できていないが、行事や地域活動（お祭り、学校運動会など）には参加し地元の人と交流ができるよう努めている。地区の中学生や高校生がボランティア活動に来てくれている。	※	自治会や老人会への参加について検討する。
			(外部評価) 地域の行事には参加しているが、農村地帯としての歴史的・地域性等もあり、日常生活の中で地元になじむ難しさを抱えている。	※	ホームとして町内会（自治会）に加入し、広報や回覧板を回してもらうことで行事等地域の情報を集め、地域の一員としてできることから積極的に参加し、交流を深めることを望む。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) ホームでの利用者支援に手一杯であるのが現状。地域の高齢者等が困っている状況を知れば、相談等必要な支援を実施したいと考えている。	※	民生委員の方などと協力して、地域の高齢者等の状況を把握して、できることがあれば取り組みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価を職員全員で行い作成している。評価は、ミーティングで報告し、改善に向けて検討している。	※	職員全員から積極的な意見交換や取り組みが得られるよう工夫したい。
			(外部評価) 職員全員で外部評価を活かして具体的に改善に取り組んでいる。また、自己評価に取り組むなかで、ホームとして地域に密着することの大切さをあらためて確認し、日々の取り組みを見直している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 実施している。 家族の運営推進会議への参加率が低いため、十分な意見が得られていない。	※	家族の積極的な意見が得られるよう工夫したい。
			(外部評価) 契約書の中に運営推進会議の項目を設け、利用者、家族の方全員をメンバーとしているが、参加できる方は少ない。ホームの行事予定や報告が主な内容となっている。	※	地域包括支援センターに加え、自治会、民生委員、地区社協、自主防災組織、地域女性組織など、地域のキーパーソンに働きかけてメンバーに入ってもらい、評価結果などを公開し、活発な意見交換ができる会にしていくことを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 地域包括支援センター保健師などにフロアーの生活や介助を見ていただき相談にも応じてもらっている。		
			(外部評価) 様々な申請手続きや書類提出の機会をとらえて窓口を頻繁に訪れ、相談や情報交換を積極的に行っており、顔見知りの関係をつくっている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部研修会に参加し、後日ミーティングで報告、説明を行い勉強会を実施している。必要な人にはそれらを推進し、相談に応じている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 外部研修会に参加し、後日ミーティングで報告、説明を行い勉強会を実施している。高齢者虐待防止関連法について理解し、防止に向けて取り組みをしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者や家族が理解・納得できるよう、不安や疑問点に対し丁寧に説明するよう心がけている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日々、利用者の気持ちの把握に努め、職員間で対応法を検討している。 また、外部相談窓口も重要事項説明書に記載している。ホーム内にも掲示している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 毎月の新聞に、個人の写真と生活状況のメッセージを書き報告している。また、必要時は随時電話等で連絡を行っている。 (外部評価) 家族が付き添ってかかりつけ医を受診する際に、利用者の健康状態を細部にわたり報告している。生活ぶりは定期発行のホーム便りで知らせ、個別に手紙と写真を添えて送っている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を玄関に設置し気軽な利用を求めている。また、相談窓口（事業所内担当及び外部）も重要事項説明書に記載している。ホーム内にも掲示している。 家族会やお便りなどで話しやすい雰囲気を作るよう心がけている。 (外部評価) 運営推進会議、家族会で自由に意見を出してもらい、意見はミーティングで検討しできるだけ改善につなげている。また、改善できないことについてはその理由を明確に説明し、理解してもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティング等で意見を聞き、運営に反映できるよう努めているが、全員の意見や提案が把握できているわけではない。	※	職員全員の意見や提案が把握できるよう、アンケートや面接、日々のコミュニケーションを行っていききたい。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 柔軟な対応ができるよう、職員の勤務体制の調整に努め、職員間で協力して実施している。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員異動も必要最小限にとどめ、より良いチームケアの実践ができ、利用者の生活環境の安定を損なわないよう配慮している。 (外部評価) 運営法人として託老所や別のホームを開設した時に異動や増員をしたが、利用者にとってより信頼感を持つことのできる職員を配置する良い機会となっている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修を受ける機会を確保し、職員育成に努めている。 (外部評価) 様々な研修会の情報を公開し、必要なものに参加できるよう勤務のローテーションを調整している。経費はホームが負担し、内容について職員間で共有できるよう報告書を作成し、内部研修を実施している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域の同業者との交流する機会は確保できていない。 ホームで行う納涼祭等へは案内をしている。	※	地域の同業者と交流する機会を確保する。
			(外部評価) 利用者と行事に参加することはあったが、現在は交流はほとんどない。	※	身近な地域でネットワークをつくり、交換研修や学習会、交流会等の機会を持つことで互いにサービスの質の向上をめざす取り組みが求められる。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 食事会、旅行、親睦会などを計画し、職員のストレス軽減にを図っている。	※	職員と日常よりコミュニケーションをしっかりと実施していく。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は、職員の個々の努力や実績、勤務状況を把握しているが、各自が向上心を持ち続けて働けるよう十分なサポートはできていない。	※	職員と日常よりコミュニケーションをしっかりと実施していく。褒めること、アドバイスすることなど、意図的な工夫をしていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 丁寧な対応に心がけ、利用者の気持ちを把握し、受け止める努力をしている。アセスメントに記録している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 丁寧な対応に心がけ、家族等の気持ちを把握し、受け止める努力をしている。アセスメントに記録している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 必要な情報収集を行い、アセスメントによる必要な支援の見極めに努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 必要に応じてお試し利用や日中体験利用などで対応している。本人、家族が納得・安心していただけるよう、随時相談に応じている。 (外部評価) ケアマネジャーや病院からそれまでの情報を得たり、利用者・家族に来院してもらい、見学や宿泊を繰り返し、ホームの雰囲気や他の利用者・職員と顔を合わせて馴染んでもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 一緒に生活をする中で得意な場面では力を発揮してもらい、お互い様という気持ちであったり、感謝の気持ちを持つなどの場面がもてる工夫をしている。 (外部評価) 利用者は人生の先輩として、職員は考え方や言葉使い、洗濯物の干し方、料理の知恵、食材の扱い方、掃除の仕方など教わることが多々ある。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日々の生活様子を伝えたり、情報を得ながら家族の協力関係がもてるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) アセスメントを実施し家族関係の把握に努めている。 入居後も、情報収集を行っている。 旅行に誘ったり、家族会や納涼祭等と一緒に過ごす時間を確保している。絵手紙や年賀状等利用者が書いて家族に送っている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) アセスメントにより馴染みの人の存在の把握に努め、本人や家族の意向を踏まえながら支援している。 以前から利用している美容院へカードを持って行っている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の関係がうまくいくように、気分が変化する時などには注意深く見守り、対応をしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、随時相談に応じる等の対応をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) アセスメント時や入居後の日々の関わりの中で、利用者の希望や意向の把握に努めている。 (外部評価) ホームでの暮らし方とそれまでの暮らし方に相違が大きく混乱することがないよう、十分な情報を得るよう家族の話をよく聞き、希望や意向を把握している。日々の暮らしの中で把握する努力を継続している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメント時や入居後の日々の関わりの中で、利用者の生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでの経過等の把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活リズムやできることやわかることを生活の動きの中から把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 日頃から本人や家族の意向を把握できるよう努めている。計画作成には、本人、家族、職員等の関係者の意見を反映させながら作成している。 (外部評価) 月2回のミーティングを行って職員全員で気づきを出し合い、日頃家族から聞き取っている要望を組み入れ、個別具体的な介護計画を立てている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 介護計画の期間に応じて見直しを実施している。また、定期的なミーティングにて状況の変化がある場合にも見直しを実施している。 (外部評価) 長期見直しの期間は6か月ごととしているが、月2回のミーティングで見直しを行い、必要に応じて随時見直ししている。	※	日常生活の記録（介護日誌）が、介護計画の具体的な評価につながった記載となる工夫が望まれる。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人記録に、介護計画書を、ケア内容、気づきなどを記入する記録用紙とともにファイリングしており、職員間で情報を共有しながらケアの実践と見直しができるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 状況に応じた対応を心がけている。併設のデイサービスや居宅事業所、訪問介護のスタッフも協力的である。 (外部評価) 家族によるかかりつけ医の受診が困難な場合には家政婦による付き添い受診をサポートしている。美容院などへの付き添い、外泊の支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 本人、家族の意向や必要性により、地域資源を活用した支援ができる体制である。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人、家族の意向や必要性により、適当な支援ができるよう、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合って検討している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 本人、家族の意向や必要性により、適当な支援ができるよう、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合って検討している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 原則これまでのかかりつけ医に継続して適切な医療が受けられるよう支援している。 (外部評価) かかりつけ医の受診は原則として家族に任せており、受診の際には健康状態や日常の生活状況を詳しく伝えている。また受診内容と医師の指示を受診報告用紙に記入してもらい確認している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) かかりつけ医及び主治医を中心に支援している。必要に応じ、他の専門医を紹介している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 併設するデイサービスの看護職員から、日々相談や助言が得られる体制である。健康状態の変化に応じた支援を受けている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 職員ができる限り面会、お見舞いをすることで、医師や家族との情報交換をしながら、対応可能な段階での早期退院支援ができるよう話し合いを実施している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) ホームで通常の介護方法で生活が可能かどうか、また、どのくらいの医療的看護が必要か、本人、家族が安心して過ごすことができる方法を家族やかかりつけ医と話し合っている。 (外部評価) ホームの運営方針として、重度者や終末期の方は対象とできないことを入居時から説明している。日常の健康管理や急変時の対応については常に話し合い確認している。	※	重度化や終末期に対するホームとしての指針を文書化し、具体的な対応を常に家族や職員間で共有し合意しておくことを望む。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人、家族が安心してより良く暮らせるために、話し合いを実施している。	※	経過支援を記録する。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 環境の変化の負担について十分理解している。必要な情報交換と継続支援に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	(自己評価) 秘密保持、プライバシー保護には十分注意して対応している。 トイレ誘導等の介護の方法、声かけにも配慮して、さりげないサポートができるよう努めている。 (外部評価) その人の範疇を侵さないよう気をつけている。名前の呼び方や声かけには十分な配慮を忘れないよう注意している。またプライバシーに関する記録や書類は慎重に取り扱っている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 自己選択、自己決定の場面を大切にして、能力に応じた対応をするように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの体調や気持ちを尊重したケアに努めている。 (外部評価) ホームの生活の流れに、一人ひとりその方のペースで関わり、自分らしく過ごされている。訪問時の昼食でも利用者がホームのペースを作っている様子がうかがえた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 必要に応じ利用者と一緒に洋服を選ぶ支援をしている。お化粧やおしゃれができ、楽しくなるよう声かけをして必要な援助を実施している。馴染みの美容院へ行けるよう支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下ごしらえ、食事、片付けなど一緒に行いながらコミュニケーションができています。好みや食べたいモノなどの希望を聞いて、可能な範囲で調整に努めている。 (外部評価) 食事の準備は利用者が職員とおしゃべりしながら行い、食事中も会話がはずみ楽しいひと時となっている。片付けは、順番に焦ることなく、思い思いに自分のものは自分で洗っている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 利用者の希望に添った飲み物、おやつを準備可能な範囲で提供したり一緒に作ったりしている。喫煙については、望み、健康面、安全面に留意しながら、見守りにより対応している。たばこの管理は、スタッフが行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) おむつの使用をできる限り減らすよう、排泄リズムの把握、誘導等の必要な介助を実施している。羞恥心に配慮しながら排泄がスムーズにできるよう支援している。尿パットの使用などの対策にも本人、家族の意向を聞き検討している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 原則毎日入浴を実施している。時間帯は利用者の体調や希望により柔軟な対応に努めている。 (外部評価) ひとりでのんびり入る、友だちと一緒にワイワイ入るなど、利用者にまかせて好きなように入ってもらっており、職員は必ず見守りをしている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 体調や希望に応じて休息をとっている。眠れないときは飲み物を飲みながらお話しなどして安心して入眠ができるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 食事作り、おやつ作り、野菜選別、掃除など、利用者の能力と意欲、楽しみに配慮しておこなえるよう支援している。やりがいを感じてもらえるよう、感謝の気持ちを伝えている。 (外部評価) 皆にエプロンを配る、掃除機をかける、トレーを拭くなど、それぞれ自分の持ち前を発揮している。家族も一緒に、年に1回から2回泊りがけの旅行も楽しんでいる。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の能力、希望に応じ、見守りをしながら買い物や外出の支援を行っている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 散歩、ドライブ、お花見、山や海へキャンプに出かけたり、喫茶店、外食へ出かけている。また、家族も自由に面会に来られ、一緒に出かけたり、外泊されたりしている。 (外部評価) 四季折々の表情がある田んぼ道を日々楽しんで散歩をしている。利用者が歩いていける範囲に商店がないので、車で買い物やドライブに出かけている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 普段行けない場所への外出は、職員の勤務調整をして実施している。季節のお祭りや果樹園ほか、利用者の希望が実現できるよう調整している。家族へもその都度連絡し、同行希望を聞いたり依頼したりして、協力を得ている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでも電話ができる体制である。絵手紙や年賀状も出せるよう支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気軽に訪問していただけるよう、雰囲気づくりに努めている。オープンなホームであることを目指している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束に関する外部研修に参加し、ミーティングで報告、勉強会をもち、正しい理解とケアを実施している。身体拘束は一切行っていない。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 鍵をかけないケアを実施している。利用者が外に出て行く場合は、職員がさりげなく一緒に付き添っている。 (外部評価) 出ようと思えばどこからでも自由に外へでられる。敷地内は広く、出入口は見通すことができる。利用者の思いをつかんでおり、必ず見守りながら付き添っている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は、職員間でコミュニケーションを図り、プライバシーに配慮しながらさりげなく誰がどこで何をしているか、把握できるよう努めている。夜間は1時間おきに巡回し、安全確認を実施している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 本人の能力、気持ちに配慮して、状況に応じ危険のないよう対応している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ミーティングで勉強会を実施している。必要な知識の習得に努め、事故を未然に防ぐ取り組みを行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 毎年職員全員、消防署に依頼して応急手当の講習を受けている。緊急連絡簿やマニュアルを作成し、緊急時の対応に備えている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 避難訓練、消火訓練を定期的に実施している。フロアーが2階なので、日頃からエレベーターを使わずに、階段を使って足腰の強化を図っている。運営推進会議で緊急時の協力依頼の話をしている。 (外部評価) 年2回避難訓練を実施している。2階からの避難に備えて、日頃からエレベーターを使用しないで階段を使うようにして機能維持に取り組んでいる。地域の協力については、今後の課題となっている。	※	運営推進会議のメンバーを介して、隣近所を巻き込みながら、災害時のマニュアルを作成し、具体的な連絡網や支援の依頼をしていくことが求められる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 起こりえるリスクについて家族に説明をしている。職員は対応策を検討し、圧迫感のない暮らしの支援に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝のバイタルチェック、食事摂取量、水分摂取量、排泄などチェックし記録している。変化に気づいたときは速やかに情報を共有し対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋を整理し、内容を把握したうえで支援するようにしている。必要な服薬支援を確実に実行できるよう注意している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 繊維質の多い食材や乳製品、水分をしっかりと、散歩や体操等日課としている。下剤を使用する場合は状態に応じて量や服薬の頻度を医師に相談している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の歯磨きを支援している。就寝前は、義歯をはずし毎週1回はポリドント洗浄している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) バランスの良い献立に配慮し、栄養、水分ともに摂取量を確認記録している。摂取量に変化がある場合は、原因を話し合い医師に相談する等の対応を実施している。公的機関の専門職にバランスチェックを依頼したが、受入困難という回答であった。 (外部評価) ホームに隣接した畑で心をこめて育てた野菜が食卓にのぼることを楽しみにしており、季節感あふれた心豊かな食事となっている。水分量の確保については、一人ひとりの生活ぶりに合った支援をしている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルを作成し、予防対策を実施している。ペーパータオルや個人のタオルを使用。タオルもこまめに交換している。手指消毒液を設置している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 殺菌処理を毎日実施している。台所の機具、水回りもこまめに掃除し、衛生を保つよう心がけている。食材についても新鮮なうちに丁寧に洗い使うことを徹底している。夏場は特に熱の徹った調理法で提供している。	※	衛生管理について、担当者を作り、随時管理がいきとどいているか確認ができるようにする。計画・実施表を整理する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関や庭には季節の花が咲き金魚やツバメが巣を作る等、明るい雰囲気になった。道路に看板を設置している。玄関にもホーム名を掲示している。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 庭に面する窓が大きく、自然の光が気持ちいい。光が強すぎる場合は薄いカーテンで調整している。テーブルやフローアーにはお花や観葉植物をおいて生活感や季節感を感じれる工夫をしている。 (外部評価) 庭に面した場所にはピアノとソファが置かれ、ゆったりとくつろぐことができる。足をのばせる畳コーナーもある。仲良しの二人で入れる浴室、自分の食器をおしゃべりしながら洗うことのできる家庭的な台所など、毎日をゆったりと過ごせる工夫と配慮があちこちに見受けられる。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ベランダにテーブルと椅子を設置している。畳の部屋も自由に利用されている。フローアーにはソファがある場所と食卓テーブルの場所がある。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に、自宅にある使い慣れた家具を持ってきていただくよう説明している。鏡台や、使い慣れた家具を持ってこられている。 (外部評価) 収納が広く十分確保されているため部屋は広く使用できる。利用者の好みの物やカーテンを持ち込み、自分らしい居室となっている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 冷暖房に頼らず温度調節を意識し、換気にも注意している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 段差のないフロアである。手すりも適当な場所に設置している。室内でも必要な方はシルバーカーが利用できるようにしている。	※	利用者の身体機能の低下に対応していく。特に浴室はユニットバスなので、対策を考えておくべき。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 利用者の状況に応じた環境作りに努めている。トイレは分かりやすく表示している。利用者によってはタンスにも用途を表示している。		
87		○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ベランダや庭にはテーブルと椅子を設置しており、自由に利用している。散歩の帰りに庭でお茶を飲んだり、お花を植えたり水撒きをしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	アセスメントや日常会話を通して思いを知ることができている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	お茶を飲んだり、食後ソファでくつろいだりする時間がある。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	起床、就寝、食事の時間についてホームの生活リズムはあるが、利用者の希望やペースを尊重して支援している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者同士の交流や職員が接することで表情が和らぐ場面が日常に多く見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	買い物や美容室へ職員や家族と一緒に出かけられている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎日のバイタル測定や観察などにより変化に早く気づけ、対応ができている。医療機関や家族とも連絡をしっかりとっている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	状況の変化に速やかに対応するよう職員間で協力している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家族と連絡を密にしている。面会時には自然な形で会話をし、思いや悩みを聞き出すよう心がけている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	地域の人々の訪問はほとんどない。ボランティアの方や、ケアマネージャー、他のフローア職員は気軽に訪問し交流している。たまに近所の子供が遊びに来る。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	回を重ねるたびに理解は深まっているように思う。現在のメンバーに加え広がっていくよう働きかけたい。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) ③ 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の介護方針について職員間の価値観や意見の相違があることが、それぞれの負担になっていることがある。よく話し合って気持ちのすりあわせをする必要がある。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	生活状況が安定している。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	生活状況を見ていただいたり報告をしている。疑問点や不安なことは随時話していただけるように関わっている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

平成14年9月の開設当初から、ホームの方針「柱」は変わっていない。家族介護を拠点に、家庭の温かさを大切に取り組んでいる。入居される方が、少しでも元気に、楽しく笑顔で過ごしていただけることがまず第一。その中で、自立支援、家族支援を並行して行っている。

「食事」「運動」「水分」「排泄」のテーマを重要視して日々の生活ケアに取り入れている。

「食事」…自家栽培の野菜や地元の新鮮な食材を使用して、毎日毎食手作りの食事を提供している。その過程は、利用者とともに作業している。

「運動」…体操、散歩、余暇活動など